

資料15:木曽川水系のダムの実力は、近年大幅に低下

○近年の少雨化傾向を踏まえ、昭和54年～平成10年の20年間の実際の河川流量を用いて、現時点におけるダムの実力を評価すると、ダムによる安定供給可能量は大幅に低下しているのが現実。
 ○ダム計画当時の開発水量に比べ、現時点のダムの安定供給可能量は、近年20年に2番目の渇水年(2/20)に対して約6割に低下、近年最大渇水(平成6年)では約3割まで低下。

(水資源開発基本計画(第4次計画)の概要:平成16年全部変更)

1. 水の用途別の需要の見通し及び供給の目標

- (1) 水の用途別の需要の見通し } 約69m³/s
- ・水道用水 : 約50m³/s
 - ・工業用水 : 約19m³/s
 - ・農業用水 : 水量の増加は見込まれない

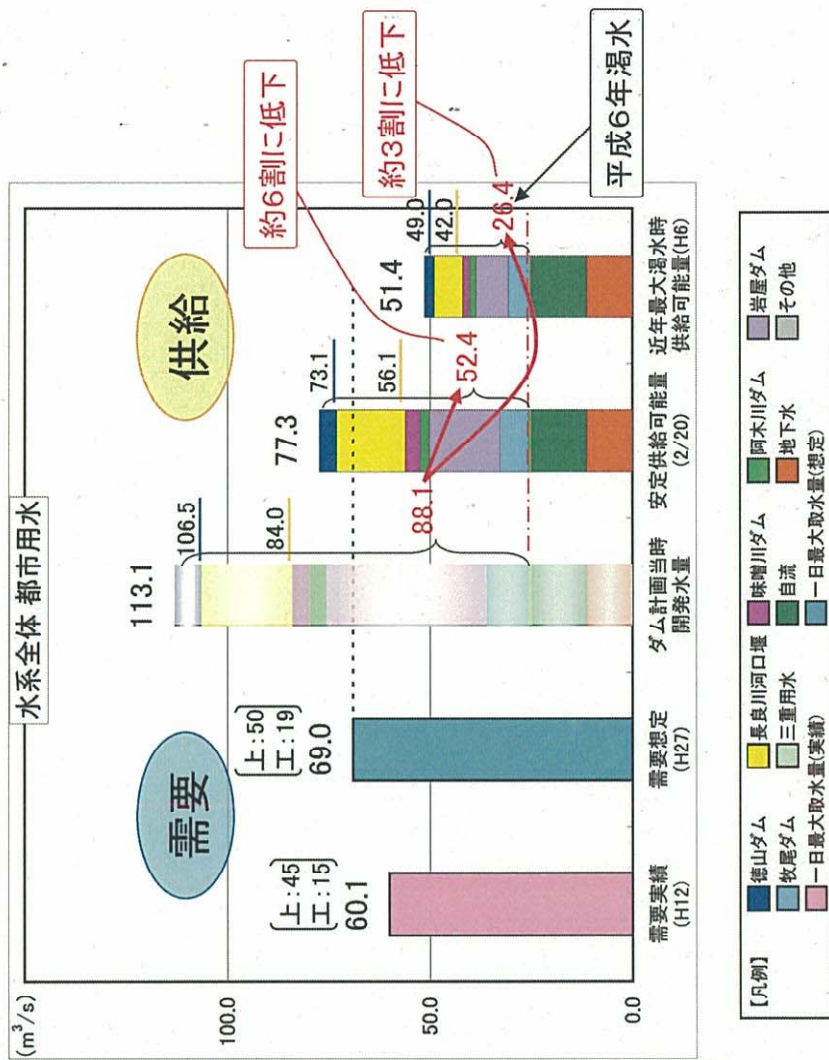
(2) 供給の目標

- ・計画当時の流況を基にすれば : 約113m³/s
- ・近年の20年に2番目の渇水年の流況を基にすれば : 約77m³/s

2. 供給の目標を達成するため必要な施設の建設に

関する基本的な事項

- (1) 徳山ダム建設事業
 - (2) 愛知用水二期事業
 - (3) 木曽川水系連絡導水路事業 ※
- ※平成20年一部変更により追加



木曽川水系における水資源開発基本計画 都市用水(水道用水及び工業用水)の異別・用途別供給想定一覧表(H16S)を基に作成
 ※ダムの実力を評価するにあたっては、実際の日々の河川流量に対して、ダムの供給量を段階的に低下させていき、10年に1回の渇水においても安定的に供給できる量を算出。